

ボウリング

～辛マニアの館～

インストラクター・ドリラーの辛口マニアックの館

はじめに

こんにちは、今回からスタートした読者のページ、その中のシリーズのひとつであります「インストラクター・ドリラーの辛口マニアックの館」では、ボウリングについての専門的な部分に深く切り込んでいきたいと思っております。更新は不定期ですので、どうか気長にお待ちくださいませ。本日は第1回目ということもあり、レーンコンディションの基礎知識です。すでにマニアとなっている方には少し物足りない内容かもしれませんが、だんだんと激辛になっていきますのでご期待くださいませ。

第1回 レーンコンディションの基礎

レーンコンディションというと、本来はレーンの傾きや材質、凹凸を含めレーンの状態すべてを含むのですが、一般的にはレーンに塗られたオイルの状態を指しますので、今回はオイルパターンに限定して解説します。

まず、把握しておかなければならないことは、一般的にレーン上にオイルがあると、ボールが滑りやすくなる性質があるということです。滑りやすいということは、ボールにブレーキがかからず、ボールがなかなか転がろうとはしません。ボールが転がらないからには、ボールは曲がりません。

これらの現象は、ボールの転がり方を自動車の運転に例えるとわかりやすいかもしれません。スピードが出ている時ほど曲がりづらいですよ。同様に凍った路面でタイヤが路面をグリップしていない状態でハンドルを切ってもなかなか曲がりませんね。

実はボウリングのレーン上でも同じような現象が起きています。

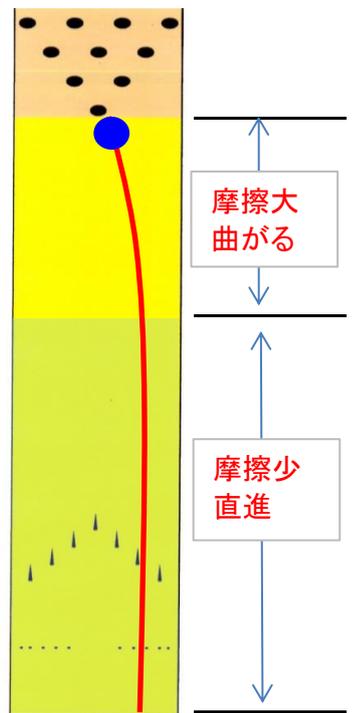
右の図①を見てください。通常レーンには全体の手前から見て3分の2ほどの距離（緑色の部分）にオイルが塗られています。残りの3分の1（黄色の部分）にはオイルが塗られていません。

つまり、緑色の部分ではオイルによって摩擦が少ないためにボールが直進しやすく、黄色の部分にはオイルがないために、ボールがレーンから強い摩擦を受けてボールが転がり始め、曲がり出すという原理です。

鋭い方はもうお気づきかもしれません。そう、オイルの塗り方ひとつでボールの転がり方や曲がり方が変化するということになります。辛口と言いながらも、既にマニアの方にとっては、退屈な内容だったかもしれません。今回はレーンコンディションを理解するうえでの基礎中の基礎ですからね。心配ご無用、回を追うごとに辛口になっていきますので気長にお付き合いくださいませ。

次回は実際のプレーにおいて、オイルがどのような影響をあたえるのか、もう一段お話を進めてみようと思っております。

図①



Good bowling!